



Yokohama Yomiuri ヨコハマよみうり

■発行／横浜読売会
■発行日／毎月5日
■発行エリア／横浜市内全域
■制作／ヨコハマよみうり編集部
〒231-0021
横浜市中区日本大通7
日本大通7ビル4F YBP
<https://yokohama-yomiuri.co.jp>



大阪・関西万博でシグネチャーパビリオン『いのちめぐる冒険』をプロデュースした河森正治さん。来年1月公開の劇場長編アニメ『迷宮のしおり』では監督を務める。作品に込めた想いや、穏やかな語り口調の奥に潜む熱い想い、そして横浜愛を語っていただいた。

横浜でカルチャーショック

3歳で神奈川区の大口に越してきて1年暮らし、その後は保土ヶ谷区の和田町で育ちました。就職して横浜を離れましたが、巡り巡って今はまた横浜に。映画のロケで何度も来ているうちに、やっぱり横浜が好きだなと感じました。生まれは富山県の五箇山です。秘境といわれた自然豊かでのどかな山奥の村。そんな村から横浜に来て、子どもながらにものすごいカルチャーショックを受けました。初めて見る蒸気機関車や市電、トrolleyバス、港にはでっかい船。

和田町駅は地形的に低いところにあり、私の家はそこから上った丘に建ち、街全体が見渡せました。小学生のころは雑木林で木登りをしたり、自転車で坂道を走り回ったり。自転車でよく新横浜へも行きました。一面に広がる田んぼでカエルを捕まえたり。そんなふうに放課後は日が暮れるまで外遊び、夜は家で物作り、そんな子ども時代を過ごしました。

新しい世界を生み出す

当時「プラモデルを作ったら負けだ」と思っていました。変な小学生でしょ(笑)。組み立てたらみんなと同じ物ができちゃうのが嫌で。ペーパーモデルや、フィッシャーテックという可動の自由度が高いドイツのブロックで、自由にオリジナルの変形メカを作っていました。

カーデザインや宇宙開発に憧れ大学では機械工学を学びましたが、いつしかアニメの世界に携わることに。空想とはいえ、アニメなら予算を気にせず多くのメカをデザインできるし、宇宙に行ける。SFの世界なら時空を超えて、どこまでも行ける。そう考えてこの世界で仕事をするようになりました。

新しい世界観やオリジナルのコンセプトを生み出すことをビジョンクリエーションと呼ん

でいます。自分はそんな「ビジョンクリエイター」でいたいと常に思っています。

命はつながっている

今年の大阪・関西万博でシグネチャーパビリオン『いのちめぐる冒険』をプロデュースさせていただきました。この仕事を経て感じたのは、実際に体験し、何かを感じて行動することの大切さです。ドキュメンタリー映像やノンフィクション小説から得た情報ではなく、体験を通してインスピレーションを得、それを核として創作すること。機械やAIは入力された情報、命令、コマンドで動いています。それらだけで動くのは情報動、命令動、コマンド動。それに対して、体験し感じて行動するのが「感動」。それが生き物として一番求められる性質ではないかと。例えばアラスカの海を泳ぐクジラの姿は、生き生きと輝いて僕の目に映りました。テクノロジーと無縁に生き、感じて行動しているのです。全ての命は食し食され自然の恩恵を受け、つながっている。命には上も下もない。『いのちめぐる冒険』では、命の多様で複雑で壮大な連鎖を実感したら、あなたはどんな未来を描きますか?と提示しました。人間中心の世界ではなく、生態系とのつながりを感じてほしかったのです。

一步を踏み出す勇氣

1月1日公開の劇場長編アニメーション『迷宮のしおり』は原作(共同)、監督を務めたオリジナル作品です。スマホがひび割れたことで自分の心が割れ、スマホの異世界に迷い込んでしまうというストーリー。スマホは発信・検索履歴、写真やメッセージなど、個人情報の塊です。自分が忘れて自分の記録まで残っている。まるでもう一人の自分みたいだと、そこから着想した作品です。物語の舞台は横浜。この街を舞台に選んだのは、横浜は世界に開かれた門・ゲートシティであり、異



アニメーション監督

河森 正治さん
Kawamori Shoji

1960年生まれ、横浜育ち・在住。アニメーション監督、企画、原作、脚本、映像・舞台演出、メカデザイナー、ビジョンクリエイター。80年代初頭のアニメブーム期に大学生デザイナーとして頭角を現す。84年アニメ映画『超時空要塞マクロス 愛・おぼえていますか』で監督デビュー。代表作に『マクロス』シリーズ、『アクエリオン』シリーズ(原作、監督、メインメカ)。メカニックデザイナーとして『機動戦士ガンダム 0083 スターダストメモリー』のメカスタイリング、ソニー「AIBO」「ERS-220」、日産デュアリスCMメカ『パスワード・スーツ デュアリス』をデザインするなど活動は幅広い。2025年大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー。一般社団法人アニメツーリズム協会会長。

世界に迷い込む入り口としてふさわしい場所だと思ったからです。

SNSの時代、「いいね!」を集めることに心を奪われ、失敗するとバッシングされる。かつては身近な大人から叱られるだけでしたが、今は世界の果てからも叩かれる。失敗するのが大変な時代になってしまった。そんな時代に、恐れることなく一步踏み出す勇氣を持てるようにと思い込みました。何かを感じていただけたらうれしいです。

掛け算で広がる世界

3歳で横浜で受けたカルチャーショック。10歳の時、大阪万博で多様な国、民族、文化に触れ、感じた多様性。20代半ばで訪れた中国の奥地で目の当たりにした村人たちの素朴な暮らし。電気がない地域では、子ども

が生き生きとしていました。これらの刺激を受けたことが、今の仕事の原点です。自然な生き方とハイテク、どちらがいい悪いではなく、お互いが響き合っている。都会にありながら広い海と空が広がる横浜のように。

都会と田舎、テクノロジーと自然、最先端とアナログ。どちらか一つと決めるのではなく、どちらも取り入れ、掛け算をする。そうすることで世界が広がり循環していく。自分はそういう仕事が好きです。やりたいこと、挑戦したいことがありすぎてしまって困るほど。時間が100倍欲しいです。(笑)

映画『迷宮のしおり』

2026年1月1日全国公開

【監督】河森正治

【CAST】SUZUKA

(新しい学校のリーダーズ)、

原田泰造 ほか



学校や塾、学童保育で子どもたちと取り組んでみませんか?

応募受付
締切迫る!
12月15日月



応募対象
小学4~6年生

第1回 読売 わたしの
KODOMO新聞
コンクール in 神奈川



1 コース **SDGs 新聞コース**
SDGsの取り組みや調べたことを新聞形式でまとめてみよう!

2 コース **わたしの学び新聞コース**
学校の授業で学んだことを新聞形式でまとめてみよう!

3 コース **街の魅力発信コース**
街の魅力を新聞形式で紹介してみよう!



名古屋市立菊住小学校 5年生 川島葉南さん 愛知県

お問合せ:「わたしのKODOMO新聞コンクール」事務局
NPO法人Meets Vision内
TEL.058-252-5519 平日10:00~18:00
主催:わたしのKODOMO新聞コンクール実行委員会

応募要項など
詳しくは公式HPへ



専用の応募用紙を
お届けいたします!
申込みはこちらから▶



お試し読み
実施中!

